

## 描画行動に見られる水平、垂直、および、事物の概念

### 構成について

○櫻井 真寿美 櫻井 幸子 倉戸 ツギオ  
(ひまわり幼稚園) (平安女学院短期大学)

わかる喜びを幼児教育のなかに育てたいと考える私たちは、まず、対象理解と認知、情報の受容、組織化と構成化、創造性への展開の過程のなかで教育の担い手同志が喜び、発見の喜びと共にえて、はぐくむ事が必要であると考える。そこにおける過程を解明するための一つの試みとして子供にとって水平、垂直の問題はどうように把握され、わかっているかを明確にするための計画を立てた。すなわち、本研究の目的は子供が人と家とをどのようにわかっているか、そして、地面や地平線を描く時にどのようにそれらの事物を組織化し、構成化するかを発達段階的に明確にしようとすることである。

#### (方法)

1)被験児は年少児39名(3~4歳)、年中児32名(4~5歳)、年長児43名(5~6歳)から構成され、合計227名である。それぞれの被験児は、2つのグループに分けられる。

2)使用材料は画用紙、12色のクレパスを使用する。四ツ切の画用紙と円の画用紙は直径38cmに切った画用紙を使用する。

3)手順はまずそれぞれの子供で好きなクレパスの色を1本選択する。そしてAグループには四ツ切の画用紙と、Bグループには円の画用紙を配る。教示は家と人を描いて下さい。という内容である。その後画用紙を配り、描くように指示する。子供から、例えば「それ以外の物を描いていい」という問い合わせがあった場合は、その子供に描いてよい、といふかわりをし、いろいろな規制はございませんだけもうけないようにする。そして、子供自身が「できあがった」と考えまるまで描画行動をつづける。

#### (結果)

##### 1)人数と%による結果

四ツ切の画用紙と円の画用紙との結果を比較すると、次のようないくつかの結果が見られる。

3才児では、画用紙の形による差はない、どちらも空間に描き、家よりも人間を大きく描く傾向が顕著に見られる。4才児では、四ツ切の画用紙では地平線描写が多かったのにに対して、円の画用紙では、空間的に描き、人よりも家を大きく描く傾向が顕著に見られる。

5才児では、人間より家を大きく描く傾向は、画用紙による差が見られなく、更に、この傾向はどの分類項目にも見られる。又、四ツ切の画用紙では、端を地面として利用して描写する行動が顕著に見られるのに対し、円の画用紙では地平線をひいて描写する傾向が顕著に見られる。

次に、絵の内容分類結果による比較の結果では以下のことが見られる。

3才児では、画用紙の形による差はない。どちらも教示された題材だけで描く傾向と、教示された題材に何か加えた描写が見られる。4. 5才児では、画用紙の形による差はない。どちらも教示された題材だけでなく、それに何か加えた描写が顕著に見られる。

##### 2)平均反応時間による結果

四ツ切の画用紙と円の画用紙との、描画行動に用了いた平均時間の結果では以下のことが見られる。

3才児では、四ツ切の画用紙では、空間に家を人よりも大きく描いている描画行動と地平線上に人よりも大きく描いている描画行動に長い時間を要し、円の画用紙では、地平線上に家よりも人を大きく描く描画行動に長い時間を要する。

4才児では、四ツ切の画用紙では画用紙の1辺を地面とみた22家を人よりも大きく描いている描画行動と、地平線を描き人を家よりも大きく描いている描画行動に長い時間を要し、円の画用紙では、地平線上に人を家よりも大きく描く描画行動に長い時間を要する。

5才児では、どちらの画用紙でも、地平線上に人を家よりも大きく描く描画行動に長い時間を要している。

次に、絵の内容分類結果による比較の結果では以下のことが見られる。

3才児では、四ツ切の画用紙では、教示された題材を描くものと教示された題材に何かを加える描画行動に長い時間を要し、円の画用紙では、教示された題材に何かを付け加えて描くものと、教示された題材の中の家を描き何かを付け加える描画行動に長い時間を要している。

4才児では、四ツ切の画用紙では、教示された題材に何かを加えるものと、教示された題材の中の人を描き何かをつけ加える描画行動に長い時間を要し、円の

画用紙では、3才児と同じ結果が見られる。

5才児では、四ツ切り画用紙では、教示された題材に何かを加えるものと、教示された題材の中「家」を描き何かを付け加える描画行動に長い時間を要し、円の画用紙では、教示された題材に何かを加えるものと、教示された題材の中「人」を描き何かを付け加えて描いている描画行動が長い時間を要している。

四ツ切りの画用紙と円の画用紙を比較してみると、3才児、4才児は四ツ切りの画用紙を使用するほうが円の画用紙を使用するよりも長い時間を要している。5才児は、円の画用紙を使用するほうが四ツ切りの画用紙を使用するよりも長い時間を要する傾向が見られる。

### (考察)

#### ①人数と%による考察

①3才児では、画用紙の形に関係なく、空間的に描く傾向が顕著に見られることから、まだ垂直、水平方向の理解が出来ていないと考えられる。

4才児では、四ツ切りの画用紙では地平線をひいて描写する傾向が顕著に見られ、子供自身が垂直、水平方向を構成しようと試みているようである。自然と地面や地平線を連想しにくい円の画用紙では、空間的に描く傾向が顕著に見られることがから、4才児では垂直、水平方向の理解というものは明確ではなく、まだまだ与えられた画用紙の枠組に影響されやすいと考えられる。

5才児では、四ツ切りの画用紙では、画用紙の端を地面として利用して描写する傾向が、円の画用紙では、地平線をひいて描写する傾向が顕著に見られる。すなわち、四ツ切りの画用紙では子供は画用紙の輪郭を垂直・水平方向として利用するという描画行動も、円の画用紙では子供自身が垂直・水平方向を構成して、描画行動を試みる行動が見られる。このことは垂直・水平方向の理解がなされていよいといえる。

②教示された題材についてとは、3才児ほどどちらの画用紙も、家より人間を大きく描き、まだ物事に対する客観的な理解ができます。自分の興味、関心、注意が先行し、自己中心的な考え方方が強いために、この傾向が生じた、と思われる。

4・5才児になると、客観的な立場からの物の概念が理解できなくなるために、人間よりも家を大きく描く傾向が顕著にみられる。

③3才児は、「人と家を描いてください」と教示された以外の描画行動が見られなかったことは、その教示内容での描画行動に限定される要因が働いたか、あるいは、人と家という表現をするとされ、他の構成概念

を利用してイメージ化を展開して、明確しようとすることができなかった、と考えられる。

4・5才児になると、教示された題材に何かを加えて描く傾向が顕著にみられる。これは、他の概念構成を付加することにより、全体的にイメージを明確化、さらに人と家と概念をより適切に表現しようという意図の反映であるといえる。

#### 2)平均反応時間の結果からの考察

3才児では、家を人より大きく描いたり、地平線上に描いている描画行動に長い時間を要している。このことは、ものの概念や空中、地上、地中という全体的な構成を理解しきてないが、その表現方法がわからないために、自分で組み立てる時間として時間が必要とすると考えられる。4・5才児では、地平線を描き家を人より大きく描いている描画行動の時間が短縮される。このことは、ものの概念や空中、地上、地中という全体的な構成を理解しきったため、表現もしやすく、時間が短縮されると考えられる。

また、四ツ切りの画用紙と円の画用紙を比較すると、3・4才児では四ツ切りの画用紙の方が長い時間が必要としている。これは、ものの概念や空中、地上、地中という全体的な構成を理解しやすい四ツ切りの画用紙では、表現しやすく集中力も伴なうが、それらの手がかりとなるものがない円の画用紙では、表現方法がわからないので次第に集中力が欠けてくると考えられる。それに対して、5才児では、円の画用紙の方が長い時間を要している。これは、ものの概念や空中、地上、地中という全体の構成が完成している時期にあるので円の画用紙においても、どのように表現するか迷いが生じても、それを克服し描画行動ができる。そのため長い時間を必要としたといえる。

